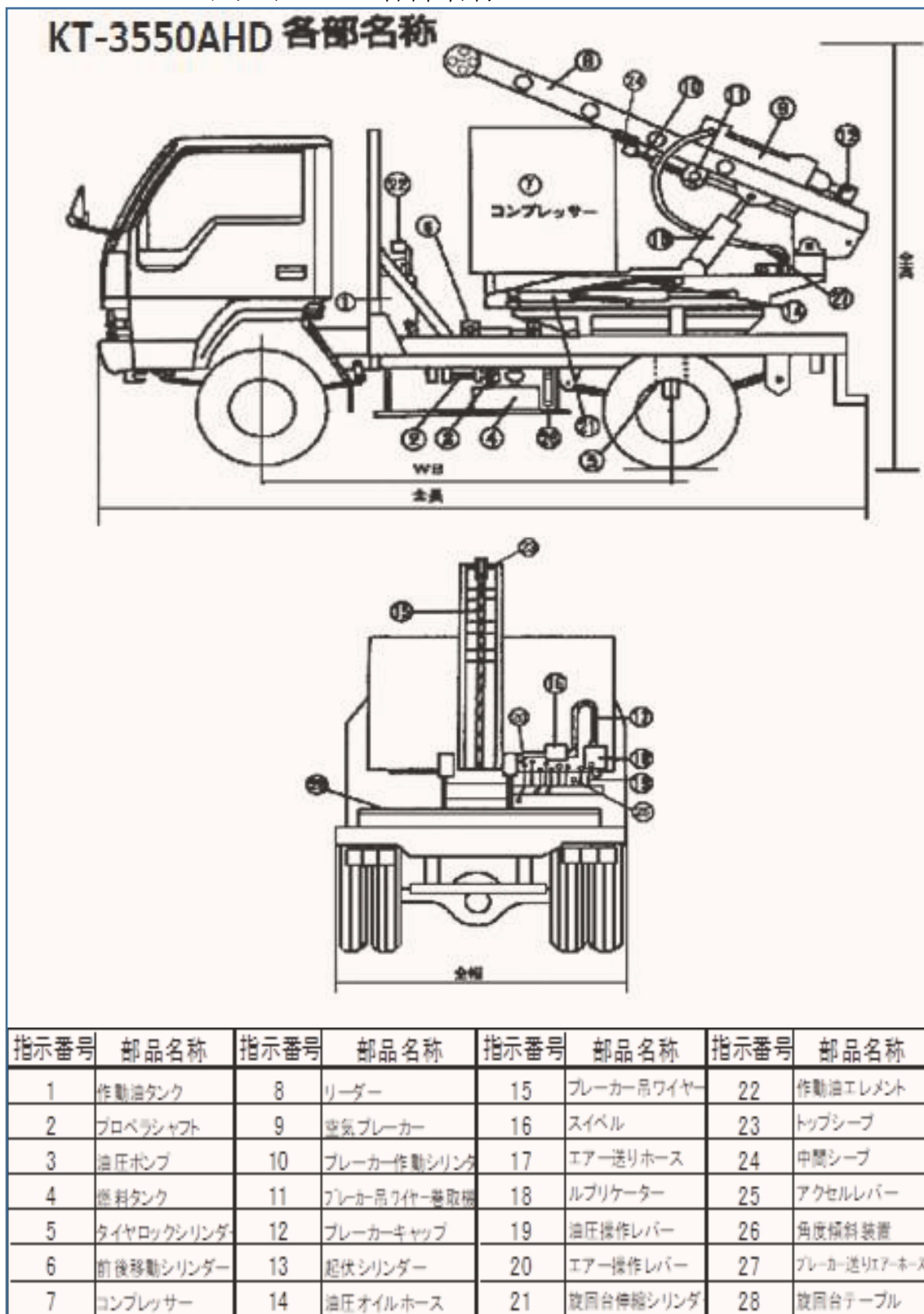

エアーストライカー®取扱説明

1. エアーストライカー®各部名称
2. 施工方法・作業手順
 - a) 打込操作方法
 - b) 格納操作手順
3. 安全な作業について
 - a) 斜め方向での作業注意
 - b) 転倒防止警報装置について
 - c) 誤操作警報装置について
4. 保守点検
 - a) 注意事項
 - b) ワイヤロープの交換
 - c) エアーオイル調整方法と給油方法
 - d) ブレーカー高さ調整ワイヤー巻上 巻下方法
(ブレーカー吊りワイヤー取替方法)
 - e) グリース給油箇所
4. その他
 - a) 作業用ブレーキロックの操作方法
 - b) アワーメーターの取扱
 - c) 急にエアハンマーが打たなくなった時

1. エアーストライカー®各部名称



レバー標準配列



- ダウンザホールモーター回転レバー
- ダウンザホールジャッキ作動レバー
- スプリングロックシリンダー作動レバー
(作業時の車輛を安定させるレバー) (作業時は最初と最後に使用)
- 傾斜シリンダー作動レバー
(機械上部を傾斜させるレバー)
- 前後移動シリンダー作動レバー
(機械全体を車輛の前後方向作動レバー)
- 旋回台伸縮作動レバー
(リリーダ―出入レバー)
- 起伏シリンダー作動レバー
(リリーダ―角度レバー)
- ブレイカー作動レバー
(ブレイカー上下レバー)
- エアークントロールレバー
(エア―ハンマー打撃レバー)

2 施工方法・作業手順

a) 打込操作方法

- ① 車両を水平堅度な場所に設置する(サイドブレーキレバーを引きブレーキを掛けること)



- ② クラッチペダルを踏み込み、PTOスイッチをONにする
クラッチペダルをゆっくり戻し、ポンプとつながったかをPTOランプ表示で確認する



注意 PTOがつかない時は再度クラッチペダルを踏み込んで
PTOスイッチをONに入れて、クラッチペダルをゆっくり戻す



エアーストライカー®の取扱説明

③ タイヤロックブレーキ装置で4輪をロックする。

- a. サイドブレーキをいっぱい引き上げる
赤ランプ(1)が点灯する
- b. パワースイッチ(2)を押す
黄色ランプ(3)が点灯する
- c. ブレーキペダルを踏み込む
青ランプ(4)が点灯する



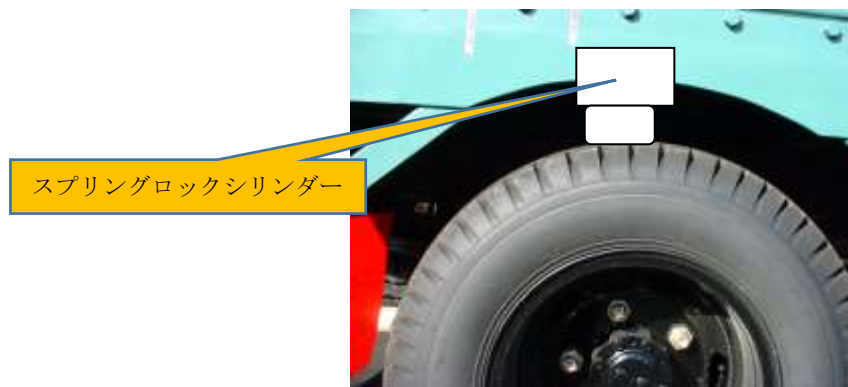
以上で 4輪がロックされる

※ ロック解除方法

パワースイッチを押せば、(3)(4)のランプが消えて
サイドブレーキの赤色ランプのみ点灯される

④ スプリングロック操作

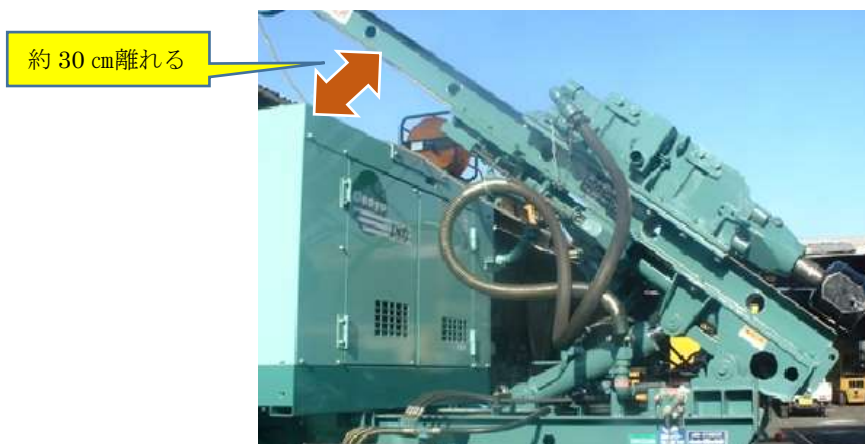
スプリングロック操作レバーを手前『伸』側に引いて、
スプリングロックシリンダーをいっぱい伸ばす。
(バルブの開く音が出るまでレバーを入れる)



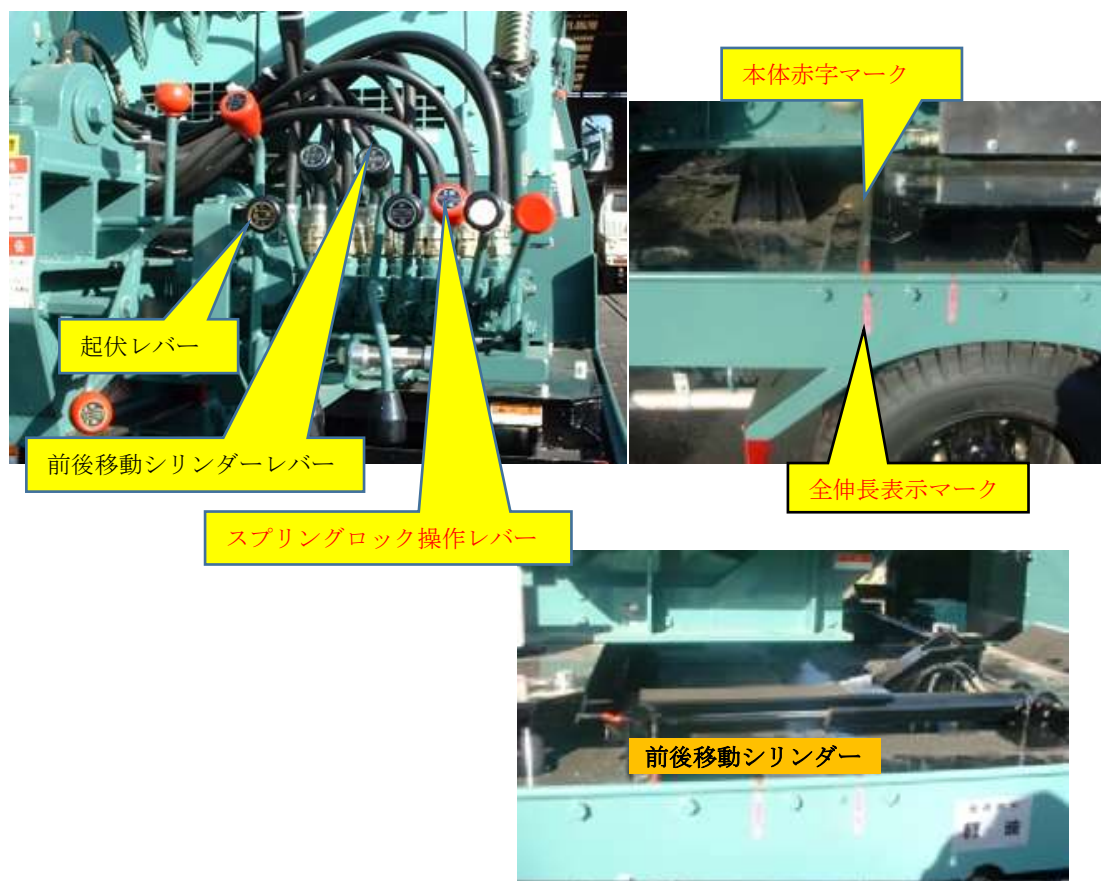
運転台ダッシュ内 (又は右側鳥居側面) のスプリングロック表示ランプが
点灯 (赤色) すれば操作完了



- ⑤ 起伏レバーを手前『上』に引き リーダーをコンプレッサーより約 30 c m程度
離す



- ⑥ 前後移動シリンダーレバーを手前『後』に引いて、車体側面にある赤色全伸長表示
マークの後ろまで、本体を移動させる
本体にも赤印マークがあるので 合わせる



注意：中途半端な位置で本体を止めて旋回させると、工具箱等に本体が接触する場合があります。
必ず一番後ろまで下げた状態にしてから 旋回させる

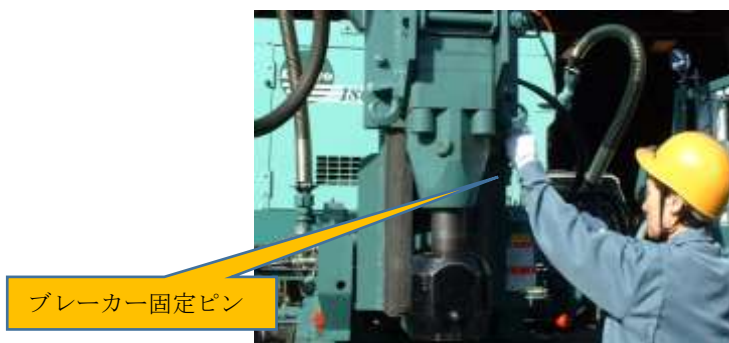
エアーストライカー®の取扱説明

- ⑦ 上部フレーム本体ボス穴に丸棒を差し込み、手動で支柱打込側に旋回させる。
上下旋回台フレーム固定ボルト（前後各 3 本 計 6 本）を入れ固定させる



注：自動旋回の場合は操作レバーにて途中打込側に固定させる（オプション仕様）

- ⑧ ブレーカー作動操作レバーを『上』にあげ、ブレーカーをシリンダー上側に入れ
ブレーカーワイヤーが張った所で、ブレーカー固定ピンを抜いて ブレーカーを
いっぱい上昇させる



エアーストライカー®の取扱説明

- ⑨ 水準器を見ながら、起伏及び傾斜レバー操作にて水準器の気泡が真中にくるようにする。
これでリーダーの水平垂直ができる



- ⑩ コンプレッサーのスターターキーをいれエンジンをかける。
30秒ぐらいアイドリングでエンジンを廻す。
アンロードバルブが始動（暖気）してから 切換レバーを運転に入れる
次にエアークックを開く



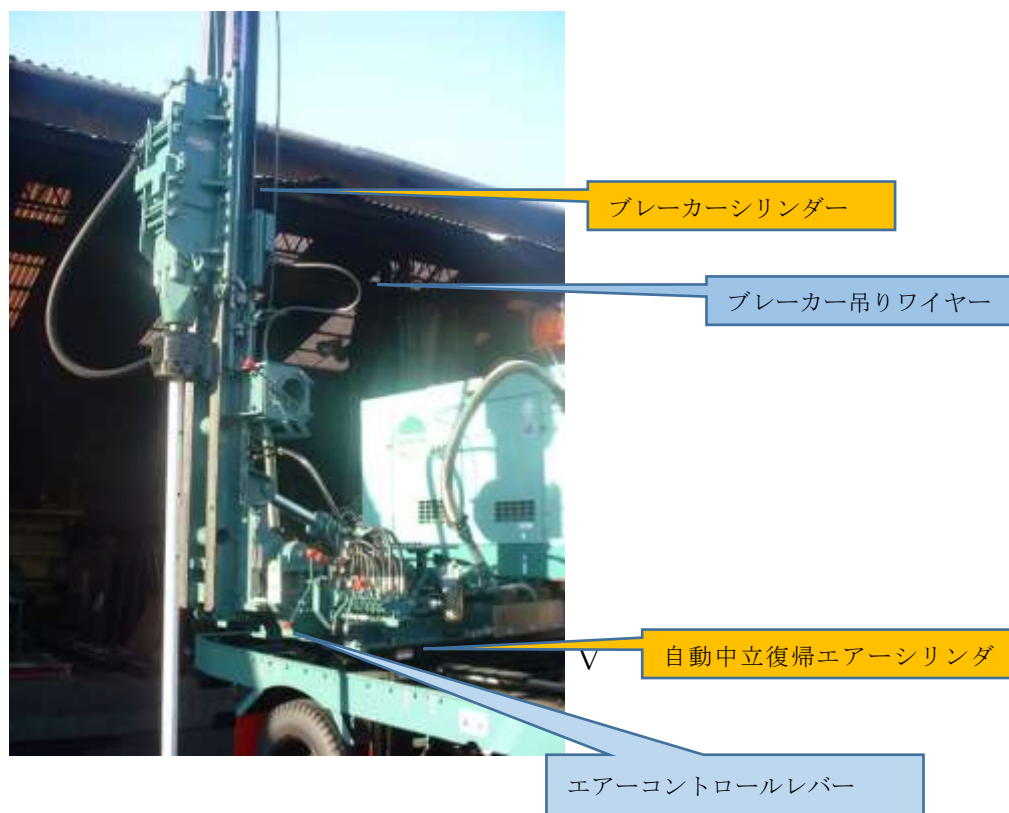
- ⑪ ブレーカー操作レバーを『上』に入れて、ブレーカーをいっぱい押し上げる



- ⑫ ガードレール支柱を打込キャップ内に入れ、ブレーカー作動レバーを『下』にしてエアブレーカーをいっぱい下げる。吊りワイヤーにたるみが出る所までブレーカー作動シリンダーを縮小させる
(レバーは、上下のポートにいれるとロックできる。手を離してブレーカーが設定した位置に来るとエアシリンダーが作動し、自動的にレバーが中立復起する)

エアーストライカー®の取扱説明

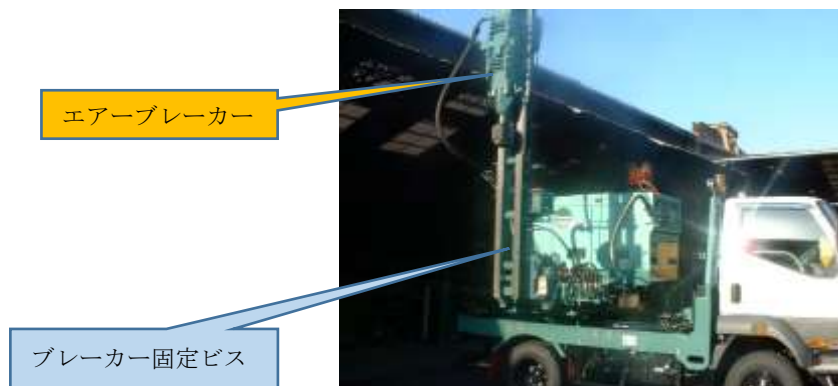
- ⑬ エアークントロールレバーを『開』にして、支柱を打込む



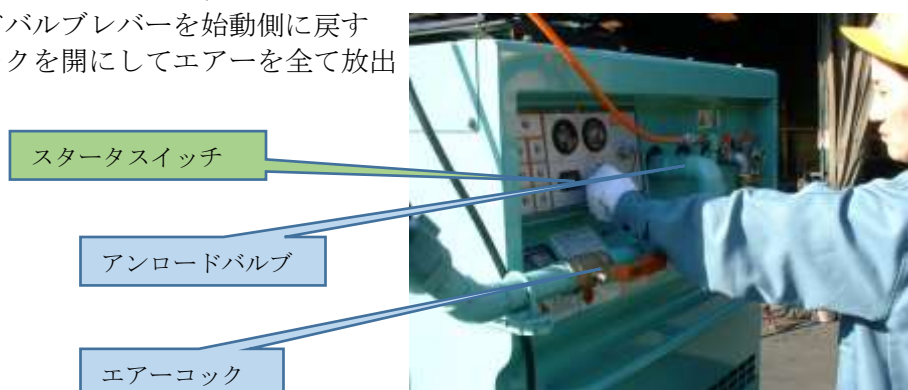
以上で 打込操作準備完了

b) 格納操作手順

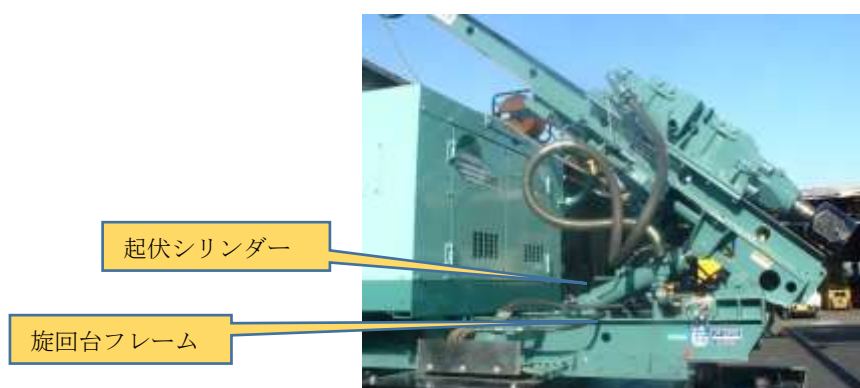
- ① エアブレーカーを下げ、ブレーカーロックピンでブレーカーをリーダーに固定する。
ブレーカー作動シリンダーを全縮させる



- ② コンプレッサーエンジンを切る
アンロードバルブを始動側に戻す
エアコックを開にしてエアを全て放出する



- ③ 起伏シリンダーを下げコンプレッサー手前 30 cm すき間を開け止める。
旋回台伸縮フレームを縮小し、走行時の位置に戻す。
(前後移動シリンダーを作動させて、旋回台本体を車輛後方に下げる)



- ④ 旋回台固定ボルトを後方から全部取り外す

旋回固定ボルト



- ⑤ 旋回台フレームを回転させ、走行状態まで旋回台を回転させる
この時、旋回台操作が硬い場合は
傾斜シリンダーを操作して
バランスを取りながら旋回操作する

旋回台フレーム



- ⑥ 架台と旋回台の平行を確認する

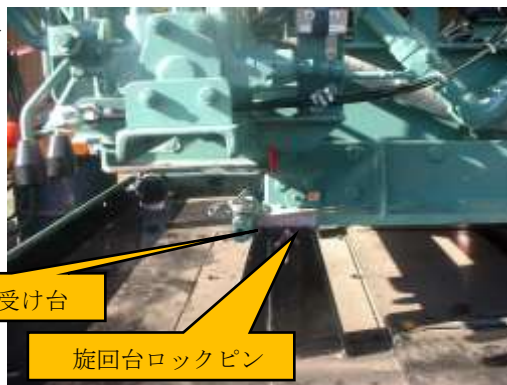
架台と本体平行ゲージ



- ⑦ 旋回台後方受け台と旋回台横面を合わせて
ロックピンを差し込む

旋回台受け台

旋回台ロックピン



- ⑧ 前後移動シリンダー操作で旋回台を格納する。
旋回台が格納受けに格納されたことを目視確認する

旋回台格納受け



- ⑨ 起伏シリンダーを操作レバー『下』で下げ コンプレッサー受け台にリーダーを格納する
(起伏シリンダーを下げる操作は微動操作で行うこと)

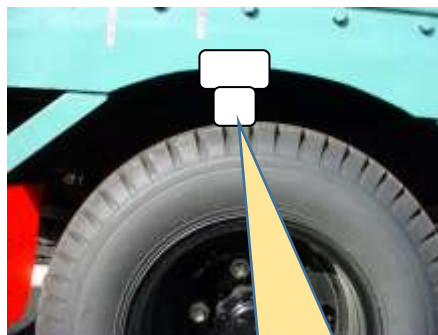


- ⑩ スプリングロックレバーを『縮』に入れスプリングロックシリンダーを全縮させ
スプリングロック表示灯が消えたことを確認する

注意：長時間 車輻から離れる時は、必ずスプリングロックを全縮させ
車輻走行状態にすること



スプリングロック操作レバー



スプリングロックシリンダー

スプリングロック表示灯(赤)



- ① クラッチを踏みPTOスイッチを切る
パワースイッチを押して切る



クラッチ ブレーキ



PTOスイッチ



パワースイッチ



- ・作業灯(荷台鳥居のランプ)
- ・路肩灯(タイヤフェンダー取付)

以上で 格納作業完了

3. 安全な作業について

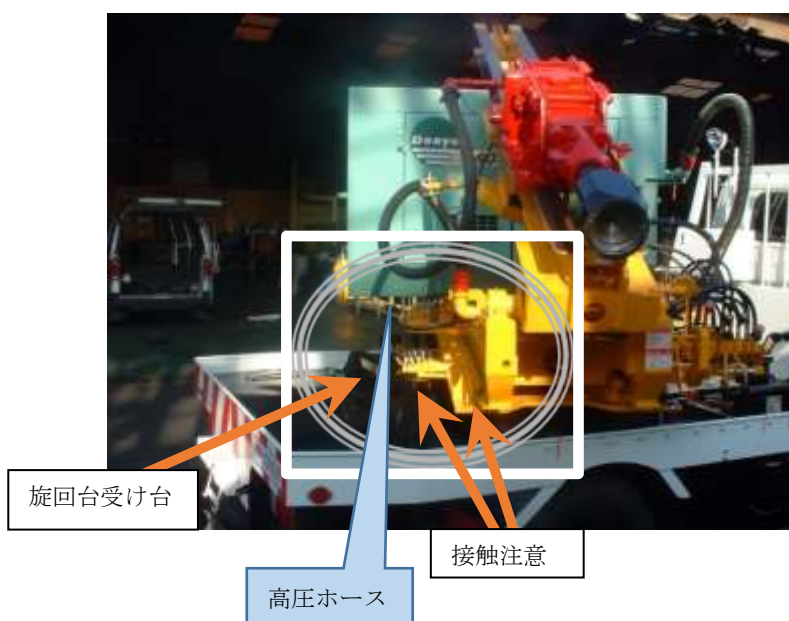
a) 斜め方向での打込作業の注意事項

旋回ロックボルトの前後4本は固定すること

- 前方傾斜シリンダーを縮小に操作する場合、
前側では、前後シリンダーカバーに旋回台が接触するので
傾斜シリンダー全縮操作はさける事（前方傾斜は7°まで）



- 後方傾斜シリンダーを伸長に操作する場合
後側では、高圧油圧ホース等に旋回台受け台が接触するので
傾斜シリンダー全伸操作はさける事（後方傾斜は8°まで）



b) 転倒防止警報装置について



転倒防止警報器

- 打込作業に入る前に転倒警報スイッチをONに入れる。車輻が左右に 7° 以上傾くと警報ブザーが鳴るので、その時は機械及び車輻を安全側に操作する。
(例 旋回台伸縮レバーを縮小側、起伏角度を格納側、ブレーカーを下げ側に操作して車輻を移動させる。)

c) 誤操作警報装置について

- 機械前方格納状態で、傾斜シリンダーの作動操作した時に機械を破損させるので、警報フォーンで知らせる。



傾斜シリンダー操作レバー (黒)



誤操作検出スイッチ

警報フォーンが鳴り止まない時は、運転席の誤操作警報切替スイッチをOFFにする

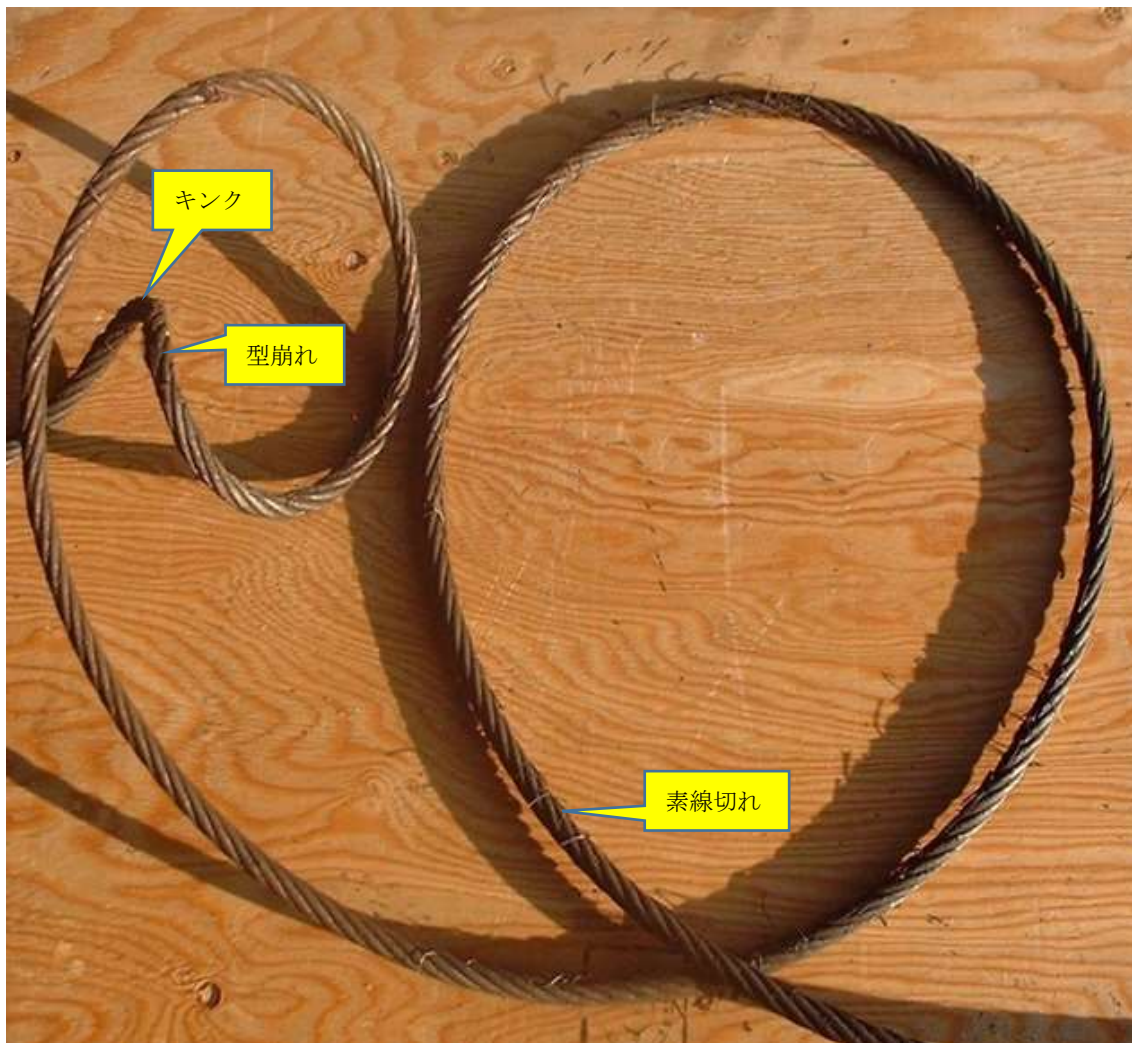
4. 保守点検

a) 注意事項

- ・コンプレッサー及びエアブレーカーについては、必ず製造元の取扱説明書を確認し、注事事項を遵守すること
- ・コンプレッサーのラジエター水及びエンジンオイルは、コンプレッサー使用前に確認する。
- ・コンプレッサーのエアータンクの水抜きは、コンプレッサー使用前後に必ずドレーンコックから抜く。
- ・コンプレッサーエアオイラーのオイルを、使用前に必ず確認する。オイルは指定のロックドリルオイルを使用し、油量を確認する。
- ・作動油タンクの作動油は、毎年1回全量交換する。
- ・作動油エレメントは6ヶ月ごとに交換する。
- ・ブレーカー本体取付ボルトのゆるみが発生する事があるので、定期的にゆるみの点検を行う
- ・各支点ピン及旋回軸受け部にはグリースを注油する。
- ・ブレーカー吊りワイヤーは、1年に1回又は素線切キックが発生した場合は直ちに交換する。
- ・打込機使用前には、弊社点検表にもとづき点検チェックを行なう。

b) ワイヤロープの交換

規格：エアーストライカー エアーハンマー吊ワイヤー用
J I S 6 号 6×37 普通Z撚り 直径 14φ長さ 10m



次の状態のものは交換する

1. ワイヤロープ 1 本の間において素線（ファイラ線は除く）数の 10%以上の素線が切断しているもの
2. 直径の減少が公称径の 7%を超えたもの
3. キンクしたもの
4. 著しい型崩れ腐食のあるもの
5. 熱やスパークにより損傷を受けたもの

c) エアーオイル調整方法と給油方法

- ① オイラーの頭部にあるマイナスネジを、マイナスドライバーにて調整する
時計廻り(右)に廻せばオイルの出が少なくなり、(左)に廻せばオイルの出が多くなる



- ② エア－サービスポートよりエア－を全開にし、オイルヘッド部ガラスの筒内のノズルより1秒間1滴程度落ちるのを目視で確認する
- ③ エア－コンプレッサーエンジン止めサービスポートより、エア－残圧を取り除き給油キャップをはずして給油する
目盛最大油量まで入れる（油量最大 0.5ℓロックドリルへオイルを注油）

d) ブレーカー高さ調整ワイヤーロープの巻上・巻下方法

- ① リーダーを垂直に立て、ブレーカー打込キャップを板木の上に乗せるかブレーカーロックピンでリーダーに固定してブレーカー作動レバーで、ワイヤーロープを緩める。（路面の水平堅土な所で行うこと）

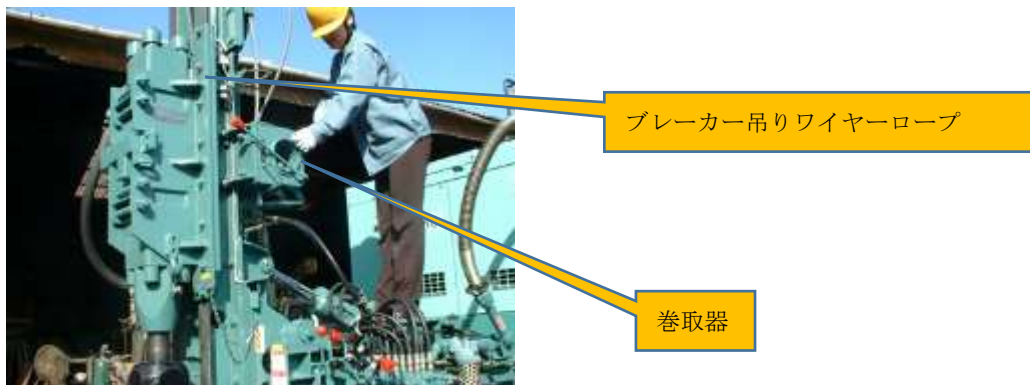


通常：キャップまでの高さ 最高 2900 mm

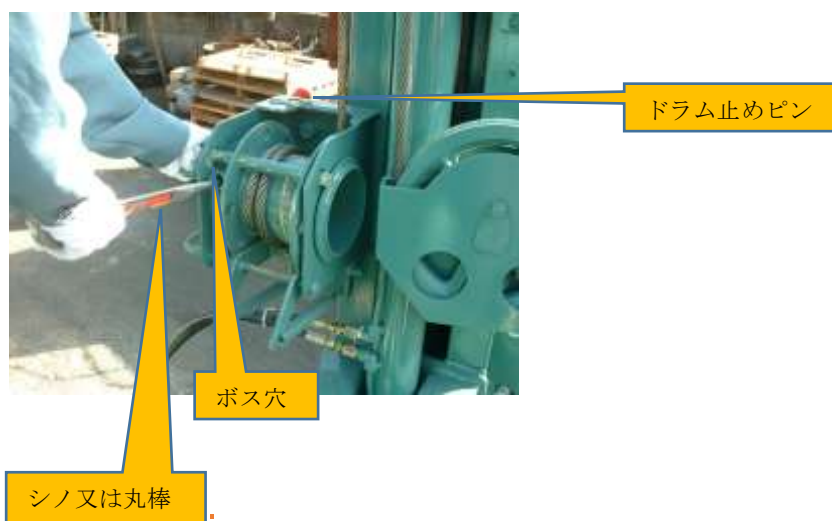
上記高さはワイヤー巻取機を操作することにより
ストローク 2300 mmを上下に調整することが出来る。

エアーストライカー®の取扱説明

- ② ブレーカー吊りワイヤーロープのたるみを充分確認のうえ巻取器廻り止めピンを取り外す



- ③ シノ又は丸棒等で巻取器ドラム横のボス穴に差入れ巻上、巻下の作業を行うこと
一つのピッチ穴をずらせば約 8cm ブレーカーキャップの位置は変わる
(巻上側に廻せばブレーカーが下がる
巻下側に廻せばブレーカーが上がる)

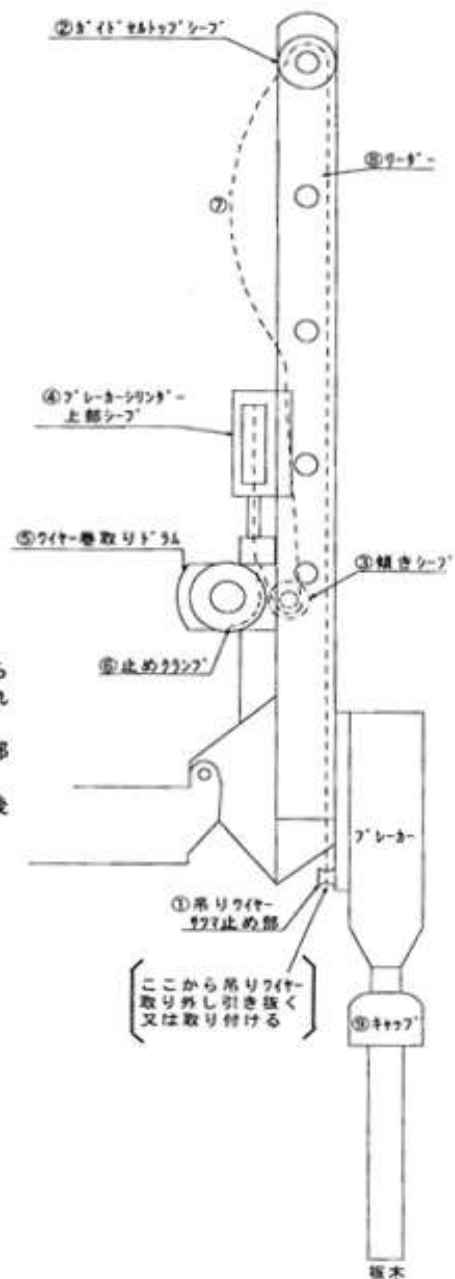


次ページの取替方法を参照して調整する

ブレーカー吊りワイヤー取換方法

- 1 図の様に⑧リーダーを立て板木等の上に⑨キャップを乗せ⑦吊りワイヤーを、たるませます。
 - 2 ⑤ワイヤー巻取ドラムを廻しながらワイヤーを取り外し最後に⑥止めクランプのナットをゆるめ吊りワイヤーを、ドラムより抜き取る。
 - 3 ①の吊りワイヤーサツマ止め部のワイヤーハズレ止めボルトをはずし吊りワイヤーを下方に引き抜く。
- これで吊りワイヤーの取り外しは完了です。

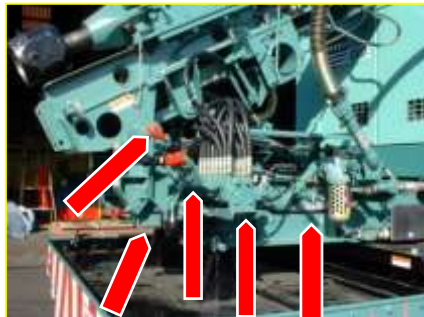
- 吊りワイヤーの取付
- ①ブレーカー下部サツマ止め部より
 - ②のトップシープへ吊りワイヤーを引き上げトップシープより③横きシープを通して
 - ④ブレーカーシリンダー上部シープを廻しながら通して⑤巻き取りドラムの⑥止めクランプに入れてボルトナットにて固定する。
- 次にドラムを廻して①ブレーカーのサツマ止め部まで吊りワイヤーを巻き取りサツマ止め吊りワイヤーのサツマ部の合った所で取り付けて最後に、必ずサツマハズレ止めピンを入れて下さい。
- これで吊りワイヤー取り付け完了です。



e) グリース給油箇所

下記を参考に、強い荷重のかかる場所や摩擦の置きやすい部分に給油する

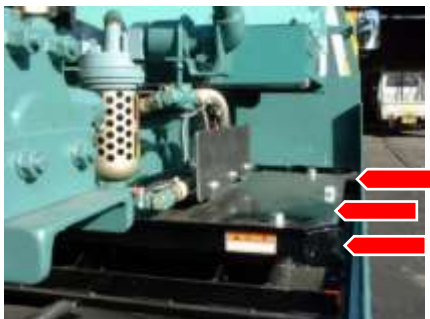
車両右後方部



架台側面分



車両中央右側



車両中央 (コンプレッサー下)



車両左側



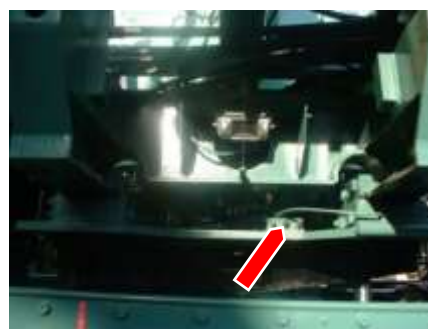
旋回台ロックボルト



車両左側後方部



旋回台及びベアリング部



5. その他

a) 作業用ブレーキロック

操作方法は下記資料の通り

作業用ブレーキロックの操作方法

注意

- ・パーキングブレーキで駐車できる場所で使用してください。
- ・作業用ブレーキロック作動中は車のそばから離れないでください。
- ・下記の場合、作業用ブレーキロックは使用しないでください。
 - エンジン停止中
 - 通常の駐車をするための使用
 - 長時間の使用（1時間以上使用すると、警報ブザーが鳴ります）
- ・作業用ブレーキロック作動中にエンジンが停止した場合は、エンジンを再始動してから作業用ブレーキロックを再作動させてください。

操作パネル

LOCK ランプ（緑）
POWER ランプ（黄）
PARKING ランプ（赤）
POWER スイッチ

LOCK ランプ（緑）が点灯するときは、ブレーキロックが作動しているときに点灯します。
POWER ランプ（黄）が点灯するときは、ブレーキロックが作動しているときに点灯します。
PARKING ランプ（赤）が点灯するときは、パーキングブレーキレバーが引かれているときに点灯します。

作動方法

- ① エンジンをアイドリング状態にします。
- ② パーキングブレーキレバーを確実に引きます。
PARKING ランプ（赤）が点灯します。
- ③ POWER スイッチを押します。
POWER ランプ（黄）が点灯します。
- ④ LOCK ランプ（緑）が点灯するまで（同時にブザー「ピーピー」が鳴ります）、ブレーキペダルを踏みます。
注意：LOCK ランプ（緑）点灯中は、ブレーキペダルに足を乗せないでください。

解除方法

- ① POWER スイッチを押します。
LOCK ランプ（緑）とPOWER ランプ（黄）が消灯します。
- ② パーキングブレーキを戻します。
PARKING ランプ（赤）が消灯します。

警報ブザー「ピーピー」が鳴ったときは

- ・PARKING ランプ（赤）のみ消灯したときは、パーキングブレーキレバーを引き直します。
- ・LOCK ランプ（緑）のみ消灯したときは、ブレーキペダルを踏み直します。
- ・操作パネルのランプがすべて点灯している場合は、ブレーキロックを解除し、再度ブレーキロックを作動させます。
- ・上記以外の状況が発生した場合、またはリセット（ブレーキロックを解除し、再度ブレーキロックを作動）してもブザーが鳴り続ける場合は、装置の異常が考えられます。装置の使用を中止し、ただちに（いすゞ販売会社）で点検・整備を受けてください。

8974908330

b) アワーメーターの取扱

アワーメーターは運転席室内に取り付けてある
車両エンジンを始動させて、PTOスイッチを「ON」にすると作動するので、PTOの作動時間を知ることができる。

PTOの作動時間と交換目安

| | |
|----------|--------|
| オイルエレメント | 500時間 |
| 作動油 | 1000時間 |



c) 急にエアハンマーが打たなくなった時

どちらかのエアジョイントを取り外し
灯油又は軽油を注入し(約 300cc)
再度打ち込みテストを行ってください。
それでも打たないときは、連絡して下さい。

エアジョイント

